学校番号	３０４

令和３年度　地理・歴史科

教科	地理歴史	科目	地理Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「新詳地理Ｂ」（帝国書院）「標準高等地図」(帝国書院)						
副教材等	フォトグラフィア地理図説２０２１（とうほう）						

人間社会を取り巻く自然環境に着目し、世界の各地域と比較しながら、その特徴を理解する。また、資源・産業等の事象を通して、社会のなかで生きる我々の活動を分析し、現代に至る自然環境と人間社会の調和を系統地理的に考察したい。先人達が作り上げてきた自然環境に対する働きかけを、文献だけでなく、映像を通じて視覚的に理解することに重点を置く。

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2　学習の到達目標

①現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し，現代世界の地理的認識を養う。
①現代世界の諸地域を，歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し，現代世界の地理的認識を養う
②地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料の活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○地理的諸事象や諸課題に興味･関心を抱き，それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけ，結びつけることができる。 ○地理学習の意義を積極的に見いだし，そこで得た知識・技能・態度をより良い社会生活へ向けて，ないしは現代世界の諸地域で起こっている諸課題の解決に生かすことができる。	○地図化する過程を通じて地理的諸事象をさまざまな角度から分析・考察･解釈し，そこから地理的概念や規則性（地理的見方･考え方）を見いだすことができる。	○地理学習に必要とされるさまざまな資料を収集し，それらを的確に取捨選択し，調査・分析することができる。 ○文献や統計の分析，野外における諸事象の観察から，地理情報を見いだし，それを的確に地図化することができる。 ○地図化したことを，論理的に分析・解釈することで，レポートなどに的確にまとめることができる。	○地理的諸事象，諸地域で起こっている諸課題についてさまざまな角度から理解を深めることができる。 ○地域において社会生活を営むにあたって必要とされる基礎的知識や基本的概念（空間・環境・地域），地理的見方・考え方を身につけている。
評価方法	○すすんで授業に参加し、発問に対して積極的に考え、答える意欲を重視する。	○課題プリント等を通じて、講義の中で整理したポイントを的確に理解し、考察する能力があるかを重視する。	○インターネットを利用して得られる地理的情報を収集して課題として整理する力を重視する。	○定期考査を通じて授業で習得した知識や理解度をチェックする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価基準	評価方法
1学期	世界の地形	○生活環境の基盤となる地形の重要性，地球表面の起伏の状態とその形成要因について理解を深める。				○	a 自然環境と人間の生活に関わる主題を意欲的に考察し、地理学習への関心を深めようとしている b 設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c 設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d 設定された主題について、地理的条件やそこで生活する人々の文化を理解し、その知識を身につけるようにする。	作業プリント 小テスト 授業参加に対する積極性を評価 中間・期末考査の成績を評価する
		○世界の大地形の分布の特徴についてプレートテクトニクスとの関わりから理解を深める。	○					
		○安定大陸の特徴と人間生活との関係について平野と山地の側面から理解を深める。				○		
		○変動帯の特徴とその形成をプレート運動との関係からとらえるとともに，人間生活との関係についても言及する。		○				
		○変動帯に見られる小地形(浸食地形・海岸地形・乾燥地形・カルスト地形・氷河地形など)の特徴とその形成過程について理解を深めるとともに，人間生活との関係についても言及する。				○		
	世界の気候	○気候環境を形成する大気の大循環についての理解を前提に，地域によって生じる気候の違いとその要因について言及する。	○					
		○世界規模での各気候帯の分布の特徴を踏まえた上で，各気候帯と植生や土壌との対応関係について理解を深める。			○			
		○各気候区の分類基準への理解を前提に雨温図やハイサーグラフの作成・読み取りを通じて各気候区への理解を深める。			○			

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料の活用　d:知識・理解

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c	d		
2学期	世界の農業と水産業・林業	○農業立地の成立要因について自然，社会，市場との距離，経済水準，国家政策の側面から理解を深める。 ○農業の発展過程とその社会的背景について３つの時代に区分して理解を深める。 ○産業化した現代農業の特色についてフードシステムの観点から理解を深める。 ○グローバル化に伴う農業地域の変化の状況についてアメリカ，EU，アジアを例に理解する。 ○世界の農産物流通の特徴について小麦，米，肉類，野菜を例に理解を深める。 ○日本の農産物輸入自由化に伴う食料自給率の低下によって引き起こされる問題点について理解する。 ○農産物貿易拡大によって生じる諸問題について多面的・多角的に理解を深める。 ○水産業の特色，水産資源の分布，水産物貿易の現状について理解を深める。 ○林業の特色，森林地域と資源の分布，貿易の現状について理解を深める。	○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a 世界の諸地域の自然環境と歴史的に育まれた、人間の生活に関わる主題を意欲的に考察し、地理学習への関心を深 めようとしている b 現代の農林水産業の現状と国家間の関係を考察する上で、設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c 世界の農林水産業と国家間の貿易に着目し、貿易などのデータをもとに、設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選 択して、読み取ったり図表 などにまとめたりしている。 d 世界の農林水産業の現状とこれからの食料需給のあり方を考える上で、設定された主題について、地理的条件やそこで生活する人々の文化を理解し、その知識を身につけるようにする。	作業プリント 小テスト 授業参加に対する積極性を評価 中間・期末考査の成績を評価する

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料の活用　d:知識・理解

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c	d		
3学期	エネルギーと鉱産資源・工業の立地と工業地域の変容	○鉱物資源の枯渇化や地球温暖化に対処するためのエネルギー政策の取り組みについてさまざまな側面から理解を深めます。原子力発電が石油代替エネルギーの筆頭にあげられる理由とともに，原発の安全性について理解を深める。 ○石油，石炭などの化石燃料を事例にエネルギー生産と消費の偏在性やそれに伴い生じる課題について理解を深る。 ○工業発展に不可欠な金属資源の重要性とそれを取り巻く国際情勢について鉄鉱石と非鉄金属のそれぞれにおいて理解を深める。 ○工業立地の条件がどのように類型化されるのか理解を深めるとともに，立地の変化要因とそれによって生じる問題点について考える。○先進国と東・東南アジア，BRICsにおける工業地域の分布とその変化について理解を深め，三極構造を見いだす。 ○自動車工業とエレクトロニクス産業を例に多国籍企業による工業立地の特徴について理解を深める。○先進国と発展途上国それぞれにおける新しい産業の集積の特徴について理解を深める。 ○工業における国際分業の変化とそれに伴う国際競争の激化について理解を深める。	○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	a エネルギー資源と世界の鉱工業に関わる主題を意欲的に考察し、地理学習への関心を深めようとしている b エネルギー資源と世界の鉱工業に関わる主題を考察する上で、設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c エネルギー資源と世界の鉱工業に関わる主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選 択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d エネルギー資源と世界の鉱工業に関わる主題について、国家間の関係や歴史的な経緯を理解し、その知識を身につけるようにする。	作業プリント 小テスト 授業参加に対する積極性を評価 学年末考査の成績を評価する

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。